

ハワイ島・ヒロのハーラウ「ハラウ・オ・ケクヒ」のカナカオレー族が七代に渡って継承してきた、火の女神ペレに捧げるフラ・カヒコ。それはカナカオレー族と、選ばれた者だけが踊ることができるもの。クムフラ ナラニ・カナカオレの下で数年間基礎を学び、さらに上級を目指すフラダンサーは、女神ペレにフラを奉納する、という特別な儀式を行います。東京でハーラウを主宰するカーエミイさんが、師であるクムフラ ナラニ・カナカオレに導かれ、いま、ハレマウマウで女神ペレにフラを捧げます。

ハワイ島キラウエア火山のハレマウマウ火口で

女神ペレに 捧げるフラ

Hula

Dedication to Goddess

Pele

Photo & Text: Yuko Ishikawa (Mikazuki Camera, Hawaii)



Hula Dedication

緊張の中、フラ奉納のための身支度が始まりました。
神聖な時、言葉を発することは禁止(カプー)です。



3. 大地からのマナを受け取るために、まずは、足首用のクベエから身につけて行きます。



2. クムとクムの夫であり、フラの愛弟子でもあるシグ・ゼンさん。ふたりがかりで着つけていきます。



1. オレナ(ウコン)で染められた、美しい山吹色のアンダースカート。



6. 5メートルもあるアンダースカート。ギャザーを寄せながら体に巻き、紐1本で締めて行きます。



5. 今度は手首です。クム ナラニがドレッシング(着付け)していきます。



4. 両足首に付けられたパラパライのクベエ。



9. クム ナラニが準備をしている間、シグさんがサポート。



8. エミイさんの準備がある程度できたところで、クム ナラニも準備を始めます。



7. ギャザーも均等に美しく! クム ナラニが丁寧に整えています。



12. さあ、行きましょう! クムとの熱い抱擁に、言葉は要りません。



11. ベレの元に行く前に、クムの最終チェック。緊張感が高まります。



10. 仕上げは頭に着けるレイポオ。クムから授かります。



クム ナラニは慣れた手つきで素早くレイをつくっていきます。



真剣な表情で、心を込めてレイをつくるエミイさん。



ハラウに置かれたイブヘケヤパフドラム。

伝説のクムフラ イーディス・カチカオレの写真。



すべては「夢のお告げ」から始まった師弟の絆

「カトーエミイ舞踊塾フラアーツ」を主宰するカトーエミイさんは、震災後の2011年に見た「夢のお告げ」に従ってクムフラナラニ・カナカオレの門戸を叩き、クムの下でフラを学んできました。ハワイ島ワイコロアに自宅を構え、東京とハワイを往復しながら厳しい稽古を数年間、受け続けてきました。クムナラニから許されて上級へ進むダンサーは、火の女神ベレが住まうキラウエア火山、ハレマウマウ火口で、ベレにフラ・カヒコを奉納するという特別な儀式にのぞみます。

フラ奉納の前日、この名誉ある儀式で身に付ける衣装の準備が始まりました。床の上には、さらにその前日にエミイさんとクム ナラニがハマクアの森に入って収穫した、たくさんのパラパライやラウアエが並んでいます。植物を収穫するときは、山の神に「これはベレへのフラ奉納のためのものです。必要な分だけ収穫させていただきます」とチャントを捧げて



パラパライを重ねながら、ボリュームが出るように編みこんでいきます。



クムと一緒にレイをつくります。



から採ったそうです。自分が身に付ける衣装を自分自身の手で準備をすることは、奉納の大切なプロセスです。自分の手で素材を集め、最後までつくり上げます。「フラとは踊りだけでなく、ライフスタイル」そのものである」とクムナラニは考えているためです。

クムナラニに教わりながら、頭・両手首・両足首、全部で5つのレイを真剣な表情でつくっていくエミイさん。広いハラウにはクムナラニとエミイさんのふたりだけ。手を動かしながら、ふたりの楽しいおしゃべりが続きます。町の美味しいレストランのこと、クムが大好きだという日本のこと…。クムと生徒という立場でありながら、とても親しい間柄です。それは年月をかけて育まれた「信頼感」があるからでしょう。数年に及ぶ厳しい練習を経て、明日はいよいよ大きな区切りの日を迎えます。

ペレに届け！
魂を込めるチャンティング



大地と空に響き渡るような、低く力強い声が始まったオリ「Kau Ka Hali'a」。始まりの時に行う、フラの女神ラカに向けて捧げられる祈りです。まるで魂からの叫びのようなオリに、風の流れまで変わったような気がしました。エミイさんのパウはシグ・ゼーンさんがデザインしたKa'iwa（軍艦鳥）。それが意味するものは「仲間と勝利」です。

右／ペレの住まうハレマウマウへ力強く歩いていく3人。クム ナラニとシグさんが手をつないでエミイさんを導きます。左／着付けを終え、クムとシグさんから祝福されたエミイさん。もう、先ほどまでと顔つきがまったく違います！



意を決して
「うげ、ペレモアウー...」

準備を終え、ペレの住まうハレマウマウ火口を見渡すことができます。場所まで向かいます。クムナラニとシグさんと手をつなぎながら、緊張した面持ちで歩を進めるエミイさん。裸足で一歩一歩、ペレの元へと向かいながら、大地から力強いマナ（パワー）を受け取って行きます。

火口の前まで行くと、クムナラニとエミイさんは、どちらからともなく肩を寄せ合いました。ふたりの視線の先には、まるでペレがふたりを見守っているかのよう。今日もマグマを燃やし、煙を吐き出しているハレマウマウ。後にエミイさんはこの時の噴煙の様子に「女神の形を見た気がする」といっています。ハワイ島では「ペレはハレマウマウの煙の中に現れる」といわれています。

ドレッシングの最中から、その場にいる全員に言葉を発することが禁止されていましたが、もちろん、この神聖な場で言葉は要りません。意を決したようなふたりの背中から、緊張感と火口にも負けない迫力が感じられます。さあ、いよいよ、女神ペレに捧げる儀式のスタートです！

今回のフラ奉納は全曲「火の女神ペレ」にまつわるフラ・カヒコ。破壊と創造を繰り返し、大地を生み出す火の女神ペレへの畏敬をテーマにした曲と、伝説を織り交ぜた曲となっています。まずはエミイさんのオリKau ka hali'a（フラの女神Lakaに捧げ全ての始まりの時に祈る）。そしてクム ナラニがHo'okupu（ここに道は開かれ許される。神々に精神と霊をフラで奉納する）という返歌で応えます。その後は以下7曲を休みなく踊り続けて儀式は進みました。

「Ho'opuka e ka la Kai o unulau」

「Aia la o Pele」

「No luna o ka hale kai o ka Ma'alewa」

「Po Puna」

「Kualoloa Kea'au i ka nahelehele」

「Halema'uma'u」

「Ka Pule」

半神半人ペレを先祖にもつといわれるカナカオレー族は、西洋人によって虐げられてきた中、キラウエアにある洞窟で古代から伝わるフラを守ってきました。「KANAKA」は人間／男、「OLE」は否定形です。つまり「人間ではない」「男ではない」という名字を継ぐ一族は「女神の一族」であり、女神へのフラを継承してゆく宿命にあり、クムフラも女性でなくてはならないと考えられているそうです。今回の儀式は一族とハラウ・オ・ケクピの中でも選ばれた踊り手だけが、ある段階を終えた後に行う儀式で、大地の女神ハウメアにひれ伏し、繁栄を祈り、ペレに魂を捧げるKAPOのフラ（一人で舞う瞑想の踊り）をペレに奉納するというものです。



目の前に広がるのは、大地、空、ハワイの女神ペレ。
抱えてきた様々な感情が身体を離れ、
祈りのフラとともに、大自然に包まれていく。

ペレと全身全霊で向き合う、魂を込めたフラ。今回の奉納は全曲が火の女神ペレにまつわるフラ・カヒコ。クム ナラニのチャントが響き、エミイさんの情熱がほとばしります。

Hula Dedication

奉納後の喜びをかみしめて。ここからまた、新たな道が始まります。



3. ティーリーフで作ったプウオロに、身につけていたレイとクベエを包み、ペレに捧げます。



2. 練習の時からずっと見守っていたシグさんも目を細めて祝福します。



1. 踊り終えた瞬間、クムが歓声をあげ、両手を広げてエミイさんを祝福しました。



6. フラを終え、充実した表情のエミイさんとクム。お疲れさまでした!



5. ペレの好物なのでしょうか、タバコやジンなども奉納しました。



4. ペレにより近づくために、崖の端まで降りていきます。



クム ナラニのチャントには人の心を動かす「何か」が宿っています。力強くも優しく、剛健でありながらも柔和なそのチャントは、魂に響きます。



8. セレモニーは「全員で食事をし「身に付ける」ことで完結する」とクム。奉納の後には全員でお食事して乾杯!



7. ハワイ島の花、オヒアレファ。奉納された場所で美しく咲いていました。



ペレが住まうハレマウマウ火口を背に、奉納を終えたばかりのクムとエミイさん。この先も長いフラへの道が続きます。

ペレに捧げるフラ奉納を終えて

聖地キラウエアでフラ奉納をするなんて、本当にスペシャルなこと。クム ナラニはエミイさんに伝えたことは「アウアナはその時代を反映し、エンターテイメントとしてクリエイティブにその時代の最上を目指して作りあげてゆくもの。つねにチャレンジしなさい。(私が教える)カヒコはケクヒのスタイルと、私が神々から受けたマナを伝授するわけだから、決して変えてはならず正確に継承しなくてはならない」。今回の儀式を独占取材して思い浮かんだ言葉があります。それは「求めよさらば与えられん」。フラを愛し、学ぶ日本人フラダンサーにとっても励みになる出来事でした。

すべては「夢」から始まりました。ハワイアン、とくにフラにまつわる家系では、「夢」をとっても大事にします。ハワイの神々との対話も、夢を通してされることが多いそうです。震災の後、夢のお告げによってクム ナラニの門下生になったエミイさん。クムもまた、彼女を初めて見た瞬間に「一緒に踊りながら日本中を旅しているヴィジョンが見えた」といいます。

周囲の空気が変わったように感じる瞬間が訪れ「今、ペレはここにいる」、この奉納を喜んで受け取ったエミイさん、思わずそんな気持ちになった奉納でした。

「エミイにはそのパワーが備わっている」と、クム ナラニはいます。エミイさんの焼けた肌に漆黒の溶岩のような長い黒髪。クム ナラニが叩くイブヘケのリズムに乗せて、両足は大地を鳴らし、体は風を切り、声は空へと羽ばたきます。

のフラを守ってきたカナカオレ一族にとって特別な舞いを日本人であるエミイさんが踊ることは至ってイレギュラーなこと。

オーラを放ちながら舞うカトールエミイさん。エミイさんのフラ人生の中で、初めての「ノームス」のパフォーマンスだったそうです!

